



はじめのいっぽ

令和7年度
9月号

令和7年8月29日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

今年の夏は暑さ指数計のアラームが鳴り響く日が続いています。
暦の上では「立秋」と言いますが…
命に危険な暑さがまだまだやって来そうです。
園内では、運動会に向けて楽しい
♪リズムに合わせたダンスの練習が始まりました。



清涼感のあるあそび
寒天遊び



今年のテーマは「**力**」ゆめ組(年長組)さんパワーで
園全体をリードしています。
応援よろしくお願いします。



運動会お楽しみに!!



～ アドラー より ～

みたび勇気づけ

1, 子どもを理解しよう

「子どもを理解する」というのは、子どもの言うなりになることではなくて、起こった出来事について、子どもがどんな風に理解し、どんな風に感情をもち、どうしていこうとしているのかを、よく話を聴いてわかってあげることです。親が話を真剣に聴くと、「親は私の仲間だ」と感じるでしょう。忙しいときなどに話しかけてくるのは、あるいは不適切な行動でもって注目を引こうとしているのかもしれません。しかし、そんな場合でも、仕事の手を止めて、真正面から子どもに向き合ってみてはどうでしょうか。

2, 冷静に話し合おう

あなたが感情的になっていても、子どもが感情的になっていても、子どもを勇気づけることはできません。そういうときには、両方の感情がおさまるまで、話し合うのを先へのばしましょう。両方が落ち着いてから、ゆっくりと話し合えばいいのです。

3, 子ども自身に考えてもらおう

子どもの人生について、できるだけ子ども自身が考えて決めてほしいと思われませんか？だって、それが「自立する」ということです。そのためには、子どもが失敗したときや間違いを犯したとき、親が指示するのではなく、子ども自身にどうするかを考えてもらうことが必要です。子どもが自分で考えることが難しいようなときでも、ゆっくりと子どもの話を聴いてあげると、子どもはさまざまなことに気がついて、自分で決めることができるようになるかもしれません。

4, 子どもを援助しよう

人間は一人で生きていくことはできません。いつでも誰かの手助けがないと生きていけないのです。子どももそうですし、大人もそうです。ですから、親は子どもを援助しなければなりません。もちろん、子どもも親を援助してくれます。そうして助け合って生きるのが家族なのです。子どもを支配するのではなく、子どもに服従するのではなく、対等の仲間として子どもを援助して暮らしたいと思われませんか？